

2001（平成13）年度 東京大学 入試問題 第4問（文系） 解答例

- 一 携帯での会話は、メッセージ性がなく、互いに反応も確かめず、自分のことを際限なくしゃべるだけの関係を印象づけたから。
- 二 文体は、多義的で流動的な現在の世界に反し、伝え難い自身の世界を自ら固定し、他者に対して強引に伝える方法であるから。
- 三 文体が不要であるなら、他者への伝達のために必要な、自己が固定した自己の世界も現在の世界に不要であることになるから。
- 四 文体のないやりとりは、他者との間に価値の共通性が成立せず、伝え難いものの伝え難さが、より直接に実感されるということ。

*（参考）

傍線部エを「しかも、社会的である」まで延長し、一二〇字設問とした場合の解答例。

文体は、多義的で流動的な現在の世界で、自ら固定した自己の世界の伝え難い孤独な在り様を他者に伝える方法である。したがって、文体のないやりとりは、他者と価値が共有されず、伝達の困難がより直接に実感されるうえ、共時的了解の関係にはあるということ。（一二〇字）